

環境活動レポート

環境活動レポート

平成28年度版

(H28年6月1日～平成29年5月31日)



当社 中間処理場

株式会社アールエムシー



作成日：平成29年7月30日

目 次

1. 環境方針-----	2
2. 環境管理実施体制表-----	3
3. 事業の概要-----	4
4. 事業規模、許可、登録一覧-----	5
5. 環境目標と達成状況及び評価-----	7
6. 主要な環境活動計画の内容と取組結果及び評価-----	8
7. 次年度の環境活動の取組内容-----	9
8. 代表者による全体評価と見直しの結果-----	10
9. 環境関連法規の違反の有無-----	10

環 境 方 針

企業理念

RECYCLE 再生できる資源を再利用に導き、自然環境保全に貢献

MOVE 常にゴミの処分に迅速に対応し、充実したサービスを提供

CLEAN 快適でクリーンな生活環境づくりを目指す

1. 人材育成

当社で働く社員が、自ら家庭およびその地域で環境保全活動を遂行できるよう、環境教育・啓蒙活動を展開します。

2. 法令遵守

環境関連の法規制はもとより、お客様からの環境に関する要望事項を遵守します。

3. 目的・目標

目的・目標については、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

- ・エネルギー（二酸化炭素）の削減
- ・廃棄物の削減及びリサイクルの推進
- ・水使用量の削減
- ・グリーン購入の推進
- ・環境貢献活動の推進

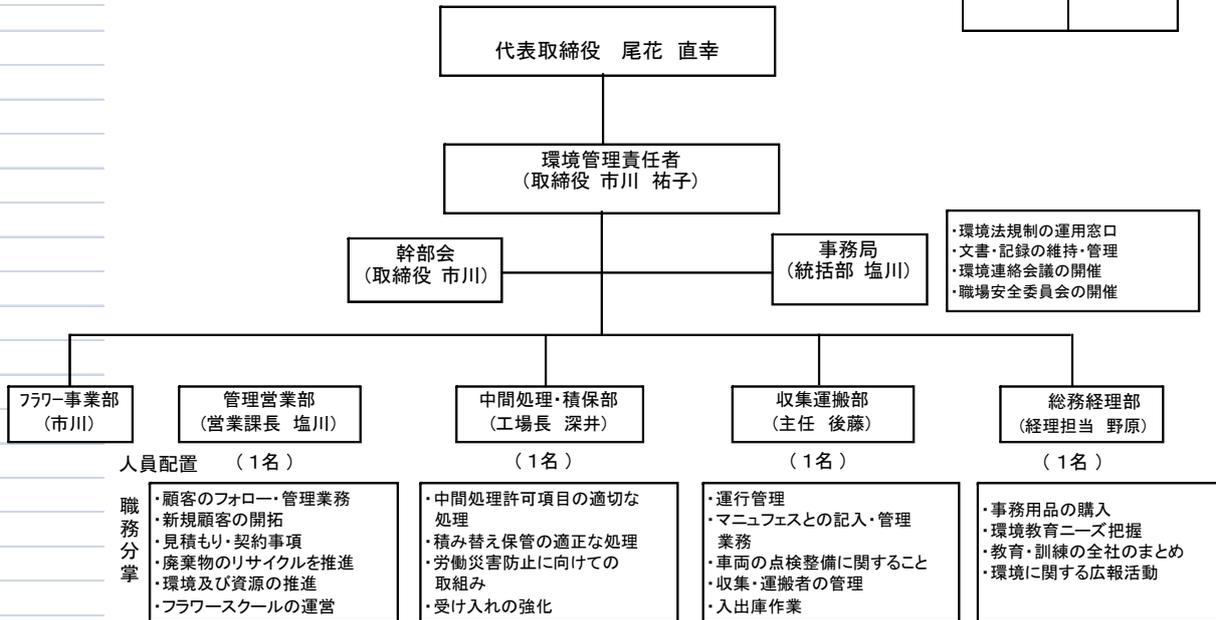
4. 方針の公開

この環境方針はホームページに掲載するなど、広く社外に公開します。

平成24年4月1日制定
株式会社アールエムシー
代表取締役 尾花 直幸

環境管理実施体制表

承認	作成



役 職	EA21実施運用における責任および権限
経営者 (代表取締役)	1. 環境方針の作成 2. 実施体制の構築 3. 環境管理責任者の任命 4. 代表者による全体の評価と見直し 5. その他
環境管理責任者 (統括責任者)	1. 環境目標及び環境活動計画の作成 2. 取組状況の確認及び問題点の是正 3. その他
事務局 (統括部)	1. 環境負荷と環境活動の状況の把握及び評価 2. 環境関連法規等の取りまとめ 3. 環境関連文書及び記録の作成・整理 4. その他
幹部会	1. 参加メンバー、代表取締役、統括責任者、営業部長、工場長、主任、経理担当 2. 内容、エコアクション21の取り組みに対して、環境への取り組み方針と目標等を定めその状況を確認評価し、目標を達成するよう活動していく。 3. 幹部会開催は年2回以上とする。 4. その他
部門責任者 (管理営業部) (中間処理部) (収集運搬部) (総務経理部)	1. 教育、訓練の実施 2. 環境コミュニケーション 3. 実施及び運用 4. 環境上の緊急事態への準備及び対応 5. その他

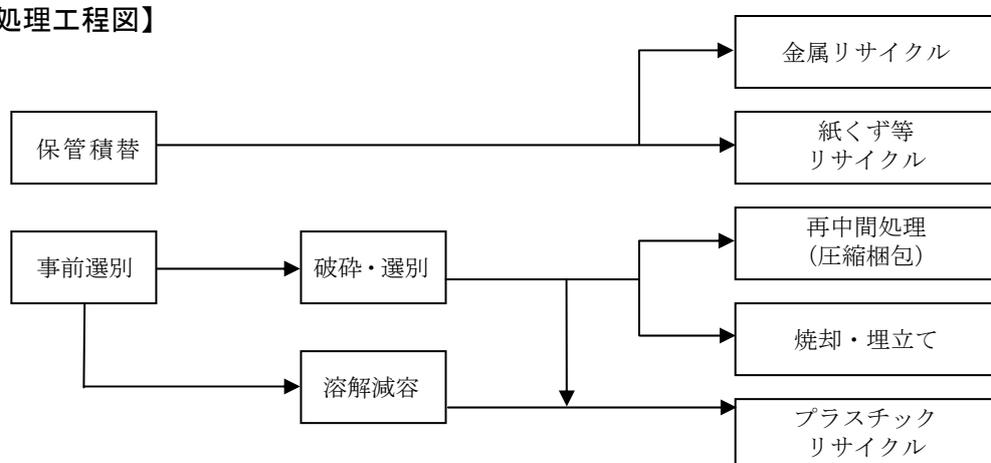
事業の概要

名称	株式会社アールエムシー		
代表者	代表取締役 尾花 直幸		
創業	1985年9月		
創立	1994年10月		
資本金	1000万円		
本社	〒340-0024	埼玉県草加市谷塚上町213-1	床面積 85.8㎡ TEL 048-925-1212
中間処分場 積替保管施設 (エコセンター)	〒340-0024	埼玉県草加市谷塚上町566-3	床面積 538.84㎡ TEL 048-929-5353
渋谷営業所	〒151-0051	東京都渋谷区千駄ヶ谷5-23-6	ガラスイト代々木206号室 TEL 03-3353-1441
足立営業所	〒121-0813	東京都足立区竹の塚5-32-11	TEL 03-3883-5353
従業員	13名		
事業内容	本社 総務部、経理部、営業部、業務部 事業系一般廃棄物処理業、産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物中間処分業（積替保管・リサイクル・溶融・破碎処理） 鉄・アルミ・缶・古紙の再生及び販売 渋谷営業所 フラワースクール運営		
事業の範囲	本社 営業部（リサイクル業及び業務の推進、拡大） 営業車 2台 事業系一般廃棄物収集運搬業 東京都23区全域 塵芥車（ルートパッカー車）5台 積載2.9t～3.2t 産業廃棄物収集運搬業 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 アームロール車 1台、ホロー車 1台、平ボディー車 2台、箱車（軽）1台 アームロール車用コンテナ 7台 積載t 1t～4t 積載㎡ 3㎡～18㎡ フォークリフト 2台		
対象範囲	全事業、全サイト		
資格取得者	産業廃棄物収集運搬業講習修了者	2名	
	産業廃棄物処分業講習修了者	2名	
	防火管理者	1名	
	フォークリフト運転技能講習修了者（1t以上）	1名	
総売上高 27年度	1億7千万円（本社 1億5千万円、中間処理施設 2千万円）		
中間処分場処理量	416.35t		
沿革	昭和60年10月	豊島区巣鴨にて、豊島運搬サービスを創業	
	昭和62年 7月	足立区竹ノ塚に本社移転	
	同年 10月	東京都23区事業系一般廃棄物収集運搬・処分業許可取得	
	平成 6年10月	株式会社アールエムシー設立	
	平成 7年 5月	埼玉県事業系産業廃棄物収集運搬業許可取得	
	平成 7年 7月	東京都事業系産業廃棄物収集運搬業許可取得	
	平成11年 8月	千葉県事業系産業廃棄物収集運搬業許可取得	
	平成13年12月	埼玉県にて事業系産業廃棄物処分業許可取得	
	同年	埼玉県草加市に中間処分場開設（エコセンター）	
	平成17年11月	埼玉県草加市に本社移転	
	平成19年 8月	神奈川県事業系産業廃棄物収集運搬業許可取得	

4) 施設等の状況

処理施設の種類	廃棄物の種類	処理能力	処理方式
破砕施設	廃プラスチック類	4.36 t/日 (8時間)	選別 - 破砕 - 選別
	木くず	3.34 t/日 (8時間)	選別 - 破砕 - 選別
	ガラスくず・コンクリートくず(がれき類を除く)及び陶磁器くず	6.22 t/日 (8時間)	選別 - 破砕 - 選別
溶融減容施設	廃プラスチック類 (発泡スチロールに限り、食品関係を除く)	0.16 t/日 (8時間)	

【処理工程図】



5) 処理実績

種類	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度
産業廃棄物収集運搬量	t	363	357	432
産業廃棄物処分量	t	417	468	497
産業廃棄物再生処分量	t	132	55	96

環境目標と達成状況及び評価

1) 中期環境目標 (H26年度～H28年度)

大区分	小区分	単位	H25 基準値	H26 目標	H27 目標	H28 目標 (3ヵ年目標最終年度)
CO2 の削減	電力使用量の削減	kWh	20,421	20,217 (1%削減)	20,215 (2%削減)	19,814 (3%削減)
	化石燃料消費量の削減	L	65,534	64,880 (1%削減)	64,230 (2%削減)	63,587 (3%削減)
	総排出量の削減	kg-CO2	181,883	180,064 (1%削減)	178,365 (2%削減)	176,479 (3%削減)
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	kg	810	769.50 (5%削減)	746.42 (8%削減)	724.02 (11%削減)
水の削減	水道水使用量の削減	m ³	330	313.5 (5%削減)	304.1 (8%削減)	294.9 (11%削減)
グリーン購入の推進		%	30	31 (3%増)	32 (6%増)	33 (10%増)
中間処理後の未再生処分量の削減	廃プラスチック類	t	26.50	25.71 (3%削減)	25.45 (4%削減)	25.19 (5%削減)
	発泡スチロール	t	0.09	0.087 (3%削減)	0.086 (4%削減)	0.086 (5%削減)
	木くず	t	30.90	29.97 (3%削減)	29.67 (4%削減)	29.38 (5%削減)
	ガラス・コンクリート・陶磁器	t	8.90	8.63 (3%削減)	8.55 (4%削減)	8.46 (5%削減)
	紙くず	t	9.90	9.80 (1%削減)	9.70 (2%削減)	9.61 (3%削減)

2) 取組実績 (評価 ○: 達成率100%以上、△: 達成率90%～100%未満、×: 達成率90%未満)

大区分	小区分	単位	H28 目標	実績	達成率(%)	評価
CO2 の削減	電力使用量の削減	kWh	19,814	13,624	145.43	○
	化石燃料消費量の削減	L	63,587	65,222	97.49	△
	総排出量の削減	kg-CO2	176,479	178,091	99.09	○
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	kg	724.02	422.00	171.57	○
水の削減	水道水使用量の削減	m ³	294.97	510.00	57.84	×
グリーン購入の推進		円	40,161	42,537	105.92	○
中間処理後の未再生処分量の削減	廃プラスチック類	t	25.19	27.20	92.61	△
	発泡スチロール	t	0.086	0.093	92.47	△
	木くず	t	29.38	26.15	112.35	○
	ガラス・コンクリート・陶磁器	t	8.46	10.25	82.53	×
	紙くず	t	9.61	9.00	106.78	○

※注: 電気使用量の排出係数0.505

主要な環境活動計画の内容と取組結果及び評価

取組項目	活動計画	取組結果及び評価
電力使用量の削減	空調機の適正温度設定	涼しい時間帯は窓を開ける等、エアコンの使用頻度を減らしたことにより、電力の使用料がかなり削減できた。
	不要照明の消灯	従業員に周知徹底することにより、年間を通して実施できた。
	使用時以外の電気機器の主電源断	パソコン、プリンターは不使用时は電源を落とした。
	高効率蛍光灯への交換	実施できなかった。
化石燃料消費量の削減	石油ストーブは1室のみ、室温10℃以下のときに使用	石油ストーブは不使用だったため、灯油使用料は0だった。
	車両走行中、急発進・急加速・急ブレーキを行わず、シフトアップはグリーンゾーン	指導の徹底により、年間を通して実施できた。当年度は軽油使用量の目標値を達成できなかったが、収集運搬量も増加していることから、許容範囲内と考える。デジタルタコメーター装備後、エコドライブに対する社員の意識向上により、燃費がアップしたことは大いに評価できる点である。
	走行距離、燃料購入量を毎日記録し、エコドライブに役立てる	実施できた。
	アイドリングストップの徹底	年間を通して実施できた。
	営業部は公共交通機関を利用する。	客先への訪問時、時間効率を考え車で移動することが多かった。
廃棄物排出量の削減	瓶・缶・ペットボトル・廃プラスチック類等の分別管理及び排出量の削減	年間を通して実施できた。
	事務処理から出る紙くず等の仕分け及びリサイクルの推進・排出量削減	年間を通して実施できた。
水道使用量の削減	元栓を全開時の7割程度に調節	実施できなかった。
	洗車場設置ホースにストッパーを付ける	実施できた。
	各蛇口に節水の表示板を付ける	実施できなかった。
グリーン購入に推進	環境ラベル認定製品の購入	年間を通して実施できた。
	省エネルギー基準的合成品の購入	年間を通して実施できた。
中間処理後の未再生処分率の削減	回収作業時の仕分け強化	年間を通して実施できた。
	産業廃棄物指定車両への積み込み	年間を通して実施できた。
	事業系一般可燃ごみ回収時、紙ごみ等の資源物仕分け強化	一部でごみの仕分けに関する意識の低い一般廃棄物排出事業者がいるため、仕分けの徹底をお願いするパンフレットを作成し配布している。
	紙ごみ等、資源物を適正に処理するための回収ルート変更	一昨年度よりコース分けを徹底し、実施を継続中である。
	中間処理場での仕分けの強化	年間を通して実施できた。

次年度以降の環境活動の取組み内容

1) 新中期環境目標 (H29年度～H31年度)

大区分	小区分	単位	H28 基準値	H29 目標	H30 目標	H31 目標
CO2 の削減	電力使用量の削減	kWh	13,624	13,488 (1%削減)	13,352 (2%削減)	13,215 (3%削減)
	化石燃料消費量の削減	L	65,222	64,570 (1%削減)	63,917 (2%削減)	63,266 (3%削減)
	総排出量の削減	kg-CO2	178,091	176,310 (1%削減)	174,529 (2%削減)	172,748 (3%削減)
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	kg	710	702.90 (1%削減)	695.80 (2%削減)	688.70 (3%削減)
水の削減	水道水使用量の削減	m ³	510	504.9 (1%削減)	499.8 (2%削減)	494.7 (3%削減)
グリーン購入の推進		—	—	封筒をエコ商品に変更する		
中間処理後の再生処分率のアップ	廃プラスチック類	%	0	1%アップ	2%アップ	3%アップ
	発泡スチロール	%	100	100	100	100
	木くず	%	100	100	100	100
	ガラス・コンクリート・陶磁器	%	73	73.73 (1%アップ)	74.46 (2%アップ)	75.19 (3%アップ)
	紙くず	%	実績なし	29年度の実績に応じて目標を設定する		

2) 取組内容

大区分	小区分	単位	H29 目標	取組内容
CO2 の削減	電力使用量の削減	kWh	13,488	必要以上の空調機器の使用を避ける。不要照明の消灯を徹底する。
	化石燃料消費量の削減	L	64,570	効率の良いルートでの回収を引き続き行う。非効率な回収地区は同業他社に任せる等、対策を講じる。
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物及び一般廃棄物排出量の削減	kg	417.78	不要なものは購入しない、受け取らないという意識を引き続き徹底する。
水の削減	水道水使用量の削減	m ³	504.90	多量に水を使用する洗車時には、更に節水を徹底する。
グリーン購入の推進		—	契約書送付用の封筒をエコ商品に変更する。	
中間処理後の再生処分率のアップ		%	1) 「H29 目標」のとおりに	引き続き顧客に対し、廃棄物の仕分けの徹底(生ごみと再生可能品を混在しない)をお願いしていく。

代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクションの活動も5年目に入り社内に浸透して来ているものの、改善の余地が多々あります。取組みには、社員一人一人の意識や毎日の努力の積み重ねが非常に重要となりますので、引き続き社員に対する省エネルギー意識の啓蒙活動を続けて行きます。

一昨年度より実施している入力作業の外注化等により、夜間まで事務作業を行わないように気をつけているため、今年度も電気使用量の削減を維持することができました。

また、昨年度の反省を踏まえ、営業車で外出の際に、近接している顧客は同日に訪問する等、効率良く営業活動を行うよう心掛けたところ、ガソリン使用量は目標値に対し、大幅に下回ることができました。

一方、軽油使用量は目標値には届きませんでした。収集運搬量も増えていることから、許容範囲内と考えます。

今後においても、更なる環境活動の定着化を図り、継続的な改善ができるよう取り組んで行きます。

環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

◆適用となる主な環境関連法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法

◆違反訴訟等

環境関連法規の遵守に努め、遵守状況を確認した結果、これら法規等への違反はありませんでした。また、関係当局よりの指摘及び住民からの環境に関する苦情・訴訟等も過去3年間発生していません。